記　者　発　表　資　料

平成 26年 5月 30日
浅瀬石川ダム管理所

5月30日から「湖水循環（曝気）装置」の稼働を開始しました
～かび臭の発生抑制を目指して～

浅瀬石川ダム管理所では、平成24年9月に発生した水道水異臭味「かび臭」の発生抑制に向けた緊急対策施設として湖水循環（曝気）装置４基を平成25年7月に設置しています。

平成25年12月5日に開催された「浅瀬石川ダム水質保全対策検討委員会」において、平成26年の湖水循環（曝気）装置は６月１日から運転開始することで提言を受けておりましたが、連日の好天による気温上昇により、貯水池表層の水温も上昇（１５℃以上）傾向です。

このことから、予定を早め、本日３０日１２時から湖水循環（曝気）装置の運転を開始しましたのでお知らせします。

□　平成２６年度湖水循環（曝気）装置の運用

運転期間：平成２６年５月３０日１２：００～９月３０日（予定）
（平成２５年の運転期間：平成25年7月1日～10月16日））
運転時間：２４時間連続運転
運転休止：洪水による濁水進入時

※発表記者会　：弘前記者会、津軽新報社

○ 国土交通省　東北地方整備局　浅瀬石川ダム管理所
黒石市大字板留字杉の沢２（TEL 0172-54-8782）
管理所長　髙橋　忠良
専門職　林　秀治



浅瀬石川ダム水質保全対策 緊急対策

国土交通省東北地方整備局
浅瀬石川ダム管理所

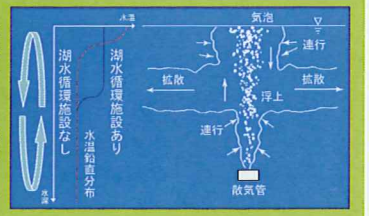
浅瀬石川ダムでは、平成24年9月に管理開始後初めて異臭味（かび臭）が発生し、津軽地域23万人の水道水に影響を与える事態が発生しました。

浅瀬石川ダム管理所では、問題発生以降、水質等の監視を強化し、津軽広域水道企業団と連携を図るとともに、学識者等による委員会を開催して水質保全対策を進めています。平成25年7月1日からは、湖水循環（曝気）装置の設置による緊急対策を行っています。

湖水循環（曝気）装置の効果

◎湖水循環（曝気）装置はかび臭対策における他ダム実績も多く水温低下効果が確認されています。

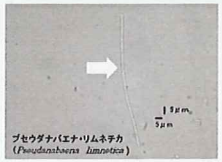
◎湖水循環（曝気）装置で湖水が循環混合した場合、表層水温は23℃から18℃まで低下すると試算されています。



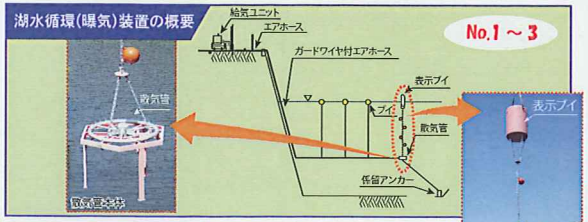
原因生物

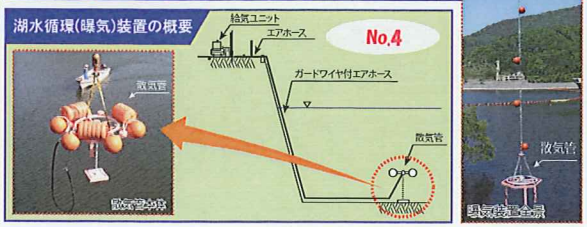
◎かび臭の原因生物は、藍藻類（藍藻綱ユレモ目プセウダナバエナ・リムネチカ）と特定されています。

◎平成24年は高い気温と少雨が続き、ダム湖表層で藍藻類の増殖に適した環境が続いていたと考えられています。



湖水循環（曝気）装置の概要





湖水循環（曝気）装置の設置箇所

湖水循環（曝気）装置の設置

◎湖水循環（曝気）装置は、細長い浅瀬石川ダムの形状を考慮し、効果的に湖水全体を循環させる観点により、4ヶ所に縦断的に配置しています。

